

光も影も…言論界の巨人

## 蘇峰の明治・大正・昭和



1952(昭和27)年5月、熊本から列車で福岡へ向かう徳富蘇峰、89歳

1923(大正12)年11月、国民新聞社仮社屋で、60歳



こしは徳富蘇峰の生誕150年です。言論人として明治・大正・昭和を生き、日本社会に影響を与え続けた蘇峰の94年をたどる展示会です。

同志社英学校で新島襄と出会い、19歳で大江義塾を開校。24歳で民友社を設立して雑誌『国民の友』や『国民新聞』を創刊。その後、時の政権に近づき、2度の新聞社焼き打ちに遭い、政界を引退後は100巻に及ぶ『近世日本国民史』を書き続けます。

人間的ボリュームにあふれた蘇峰の魅力を新聞博物館が所蔵する蘇峰直筆の手紙や書、初版本、新聞や写真からお楽しみください。

蘇峰  
23歳

会期

12月10日(火)～2月2日(日)

※日曜・祝日休館(最終日のみ開館)

※年末年始は、12月26日(木)～1月5日(日)まで休館

10:00～16:30

会場

新聞博物館

(熊本市中央区世安町172 熊本日日新聞社内)

主なコーナー ※総点数およそ300点。

- ・大江義塾まで
- ・新島襄 & 八重夫妻と蘇峰
- ・平民主義～雑誌『国民の友』、『国民新聞』創刊
- ・国家主義への転進～『藩閥の友』へ
- ・歴史評論家蘇峰～『近世日本国民史』執筆
- ・失意の戦後と「最後の帰郷」
- ・新聞人蘇峰の語録

入場  
無料